

NBC災害出動部隊の編成について(イメージ)

1 趣旨

NBC災害の態様別に、標準的な部隊編成を事前に想定しておくことにより、発災時の迅速な部隊出動、効率的な部隊運用を図る。

2 部隊編成に影響を及ぼすと思われる諸要因

- (1) 災害の種別(N・B・C)
- (2) 対象(漏洩)物質の種別
- (3) 傷病者数(曝露者数)
- (4) 風力、湿度、温度等の気象条件
- (5) 発生時間帯(昼間・夜間)
- (6) 発生場所(駅、繁華街、地下街など)
- (7) テロの可能性の有無
- (8) 災害発生場所と医療機関の距離 等

3 部隊編成の検討方法

- ・消防本部の指令室の指令員が、119番通報内容を基に判断する目安となるもの。
- ・災害の種別(N・B・C)ごとに上記2の要因のうち主なもの(例:傷病者数(曝露者数))のレベルにより分類した3から4の標準的部隊編成案を作成。
- ・その他の要因(例:発生場所、気候条件)により部隊の増減の基準を予め設定しておく。

4 活用のイメージ

- (1) 想定条件(通報・聴取内容)
A市内の研究所で生物剤の漏えいと思われる事故が発生。現場では30人程度の曝露者がいる模様。
- (2) 上記の条件での出動部隊
(事前に策定されていた)次頁の「何らかの生物剤が漏洩し、概ね20人以上50人未満の曝露者が発生」の「第一次対応」の諸部隊に対して出動を指示
- (3) 消防力が不足する場合の対応
A市の(保有する)出動可能な部隊数が上記(2)の出動部隊を下回る場合は、その不足分を、①消防相互応援、②県内応援、③緊急消防援助隊の順番で検討し、関連消防本部、都道府県に要請する。

5 部隊編成表 イメージ例(B災害)

災害の種別	対象災害概要	第1次対応				第2次対応					
		担当隊	隊数	保有資機材	任務	担当隊	隊数	保有資機材	任務		
B 災害	概ね何らかの未生物の剤曝が漏洩し、発生	指揮隊		2	統括指揮 1 指揮支援 1	指揮隊		2	指揮支援 1 広報 1		
		救助隊	A1隊	2	生物剤検知器 陽圧式防護服 陽圧式車両1以上	検知 2	救助隊	A1隊	2	生物剤検知器 陽圧式防護服 陽圧式車両1以上	現場指揮者の下命による
			A2隊	4	簡易生物剤検知器 陽圧式防護服	ホットゾーン設定 1 救助 2 除染 1		A2隊	2	簡易生物剤検知器 陽圧式防護服	現場指揮者の下命による
		除染隊等	B隊	3	防毒マスク 化学防護服 小型除染テント	ウォームゾーン設定 1 1次トリアージ 1 除染活動 1	除染隊等	B隊	2	防毒マスク 化学防護服 小型除染テント	現場指揮者の下命による
		消防隊等	C隊	6	防毒マスク	避難誘導 2 警戒区域設定 1 傷病者搬送 2 警戒安全管理 1	消防隊等	C隊	2	防毒マスク	現場指揮者の下命による
			D隊	3	エアータント 担架	広報 1 警戒 1 救護所設定 1		D隊	2	エアータント 担架	現場指揮者の下命による
		救急隊等		10		救急現場指揮 1 搬送 9	救急隊等			必要時は現場指揮者の特命による	
	概ね20人以上の生物剤曝が漏洩し、発生	指揮隊		3	統括指揮 1 指揮支援 2	指揮隊		2	指揮支援 1 広報 1		
		救助隊	A1隊	3	生物剤検知器 陽圧式防護服	検知 2	救助隊	A1隊	2	生物剤検知器 陽圧式防護服	現場指揮者の下命による
			A2隊	10	簡易生物剤検知器 陽圧式防護服	ホットゾーン設定 2 救助 6 除染 2		A2隊	2	簡易生物剤検知器 陽圧式防護服	現場指揮者の下命による
		除染隊等	B隊	8	大型除染システム 防毒マスク 化学防護服	ウォームゾーン設定 2 1次トリアージ 2 除染活動 3 交替予備 1	除染隊等	B隊	2	防毒マスク 化学防護服 大型除染システム 小型除染テント	現場指揮者の下命による
		消防隊等	C隊	11	防毒マスク	避難誘導 4 警戒区域設定 2 傷病者搬送 5	消防隊等	C隊	2	防毒マスク	現場指揮者の下命による
			D隊	6	エアータント 担架	警戒 2 救護所設定 2 救護補助 2		D隊	2	エアータント 担架	現場指揮者の下命による
		救急隊等		20		救急現場管理 1 管理補助 1 搬送 18	救急隊等			必要時は現場指揮者の特命による	

注1 傷病者の状況、風向き、災害発生場所等により、現場指揮者等が必要部隊数を増減。

2 漏洩物質特定後は、装備に応じた任務に変更することも可能。

3 自衛隊、警察との連携活動実施時には、本表任務の一部を調整の上、他機関への委託も考慮